

「おねがいパンダさん」(スティーブ・アントニー作/せな あいこ訳 評論社)という絵本があります。表紙の絵は、「かわいいパンダ」という雰囲気ではありません。ところが、玉川大学教授 大豆生田 啓友(おおまめうだ ひろとも)氏によると、この絵本が1歳児クラスで大人気だと言います。

この絵本の主人公のパンダは、「ドーナツいかがですか？」と勧めながら、それを欲しがるとさまざまな動物に対して、「やめときます。あげません」とへそ曲がりな回答を続けます。ところが、最後にワオキツネザルに出会い、「おねがいパンダさん、ぼくにドーナツくださいな」と言われると、「はい、ぜんぶあげます」と言って、あげてしまうのです。

「え、なぜ？」と、読み手は思います。謎に包まれたまま、ストーリーが終わるのです。そのため、「よくわからない」という感想もあれば、「なるほど！丁寧な言葉遣いか！」などと、インターネットでも話題です。確かに、ドーナツをもらえなかった動物たちは、「よこせ」とか「くれよ」と言っていますし、本の帯には、「『おねがいします』『ありがとう』という言葉をおぼえてしまった大人たちにも読んでほしい」と書いてあります。

お子さんとこの絵本を一緒に読み、「おねがいします」「ありがとう」などという丁寧な言葉遣いについて話題にすることができれば、例えば食事をしているとき、お子さんが、「醤油！」とだけ言うような場面があるとすれば、「ママはパンダさんと同じだよ(*^_^*)」という優しい一言で、お子さんがハツとして丁寧な言葉遣いに言い直すかも知れませんね。

しかし、この絵本を、正しい言葉遣いを学ぶだけの道具としてだけ使うならば、まったく面白くないお話になってしまうと大豆生田氏は言います。なぜなら、カラフルなドーナツに目がいき、ワオキツネザルがその中に隠れていることに気づく子もいるからだそうです。子どもたちは、さまざまな発想で絵本を読んでいくからこそ、絵本からの多様な発見や対話があり、探究が生まれるのだと言います。

娘が3歳の頃、クリスマスプレゼントに絵本を買ったことがありました。その絵本は、主人公の名前を娘の名前にしてくれるという絵本だったので、きっと喜ぶに違いないと私はワクワクしていました。ところが、娘の反応は(ふ～ん)という程度でした。そこで、大きくなった娘に、あの時のことを聞いてみました。すると、「だって、あの絵、あんまり・・・」とのことでした。私は、素敵なストーリーだと思いました。しかし、絵本を自由な発想で楽しみ始めた娘にとっては、絵の方がむしろ発想力を広げる大切な要素だったのでしょう。

大人は、絵本が伝える「正解」とは何かを求めてしまいがちですが、どうやら子どもたちには違った読み方があるようです。そうした子どもの世界を引き出す力が、きっと「おねがい パンダさん」にはあるのでしょう。

もうすぐ、クリスマスです。お子さんの発想力を広げられるような、素敵なプレゼントを贈りたいものですね。【A】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

○「すこやかメール相談」このアドレスに返信することで子育てに関わる相談が受けられます。乳児から小中学校での困り事などお気軽にご相談ください。

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

【転送からの登録手順】

「このメルマガを友人・知人に転送する」→「受け取った方が登録用アドレスを確認する」
→「『メルマガ配信希望』と入力し送信する」→「配信登録完了！」(次回から直接、メルマガを受信することができます)

【紹介からの登録手順】

アドレス kosodatem@pref.iwate.jp をご紹介していただき、「配信希望」とメールすれば登録できることをお伝え願います。

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索